

題材デザイン
 FIRST STEP
 —中学校音楽科—

1 題材デザインは何のため？

- 学習指導要領では、資質・能力を育成するため、単元や題材などの内容や時間のまとまりの中で「主体的・対話的で深い学び」を実現することが大切だと示されています。
- 「指導と評価の一体化」の観点から、題材の指導と評価の計画を作成することが求められています。
- 教師が生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、意図的・計画的に授業づくりを行うことができます。
- 生徒が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができます。



2 題材をデザインする際のポイント

題材をデザインする際のポイントについて、以下の手順を例に示します。

Step 1 題材を通して育成する資質・能力を明確にし、**題材の目標**を立てます。

Step 2 題材を通して育成する資質・能力を身に付けることができるようにするために、**授業をデザイン**します。

Step 3 各時間の**学習内容**や**学習活動**を考え、各時間のねらいに沿って、適切に音楽活動を位置付けます。

Step 4 **題材の指導と評価の計画**を作成します。

題材デザインの具体

第2学年『夏の思い出』の曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌おう（A表現(1)歌唱）を例に

Step 1 題材を通して育成する資質・能力を明確にし、**題材の目標**を立てます。

- アンケートや振り返りなどの学習履歴を活用し、生徒の実態を把握します。

感受することはできるようになってきているけれど、知覚することはまだ苦手みたいだな

少しずつ発声の方法が身に付いてきているな

歌詞の内容と関わらせながら、日本語がもつ語感のリズムと旋律の美しさを味わって歌うことができるようにしたいな



- 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編（以下、学習指導要領解説）を基に、「A表現」については、ア、イ及びウの各事項を、「B鑑賞」については、ア及びイの各事項を適切に関連させ、〔共通事項〕ア及びイを位置付けます。

	(1) 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること。
知識	イ(ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わり
技能	ウ(ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能
〔共通事項〕ア	旋律、強弱、形式

- 題材を通して育成する資質・能力を明確にし、題材の目標を設定します。

♪題材の目標

- (1) 「夏の思い出」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で「夏の思い出」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。

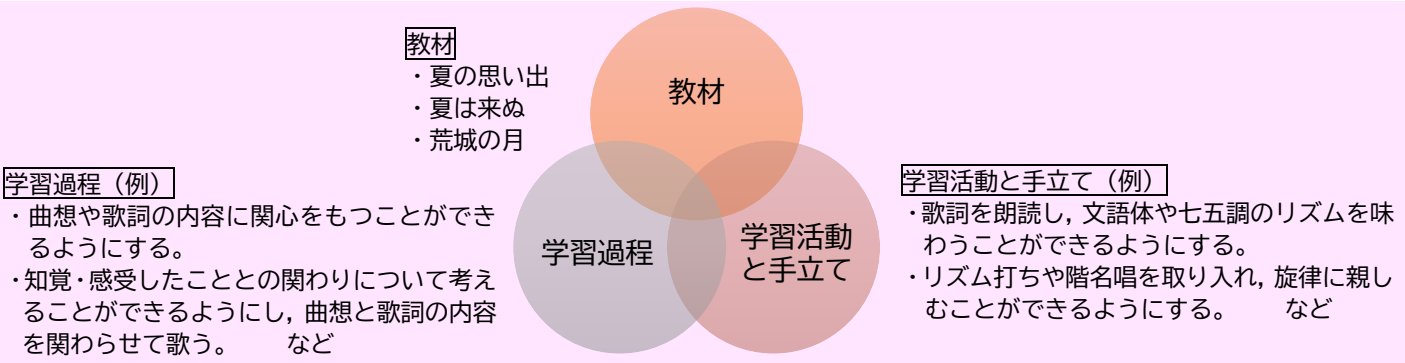
知識及び技能
- (2) 「夏の思い出」の旋律、強弱、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「夏の思い出」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。

思考力、判断力、表現力等
- (3) 「夏の思い出」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、我が国で長く歌われている歌曲に親しむ。

学びに向かう力、人間性等

Step 2 題材を通して育成する資質・能力を身に付けることができるようにするために、**授業をデザイン**します。

- 題材を通してどのように学ぶかについて、教材、学習過程、学習活動と手立ての3つの視点で整理します。



Step 3 各時間の**学習内容**や**学習活動**を考え、各時間のねらいに沿って、適切に音楽活動を位置付けます。

- 各時間のねらいに沿って、適切に音楽活動*を位置付けます。

*表現及び鑑賞の幅広い活動いわゆる音楽活動は、題材を通して育成する資質・能力を身に付けるための手段です。



POINT

小学校、中学校、高等学校における音楽の学習は、音楽活動を通して行われることが前提です。このことは、教科の目標に「表現及び幅広い活動を通して」（中学校）などのように示されています。題材をデザインするに当たって、「教師が生徒にとってよい経験になるであろう音楽活動を設定し、その活動を生徒に経験にすることができる場」とするのみではなく、「生徒が、何をどのようにして学ぶのかを考え、そのために必要な活動を設定し、生徒が自ら学んでいくことができる場」とすることがポイントです。中等教育資料（平成29年5月号）を基に作成

Step 4 **題材の指導と評価の計画**を作成します。

- 題材の評価規準を作成します。

♪題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
☑ 「夏の思い出」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 ☑ 創意工夫を生かした表現で「夏の思い出」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。	☑ 「夏の思い出」の旋律、強弱、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「夏の思い出」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもって	☑ 「夏の思い出」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

□ 題材の指導と評価の計画を作成します。

時	◆学習のねらい	○学習内容	・学習活動	評価			評価方法
				知	思	態	
1	◆「夏の思い出」の歌詞が表す情景や心情、曲の背景に関心をもち、旋律、強弱、形式などの特徴を捉えながら、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解する。			知			観察、ワークシート
	○「夏の思い出」の曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち。 ・「夏の思い出」の演奏（歌詞なし）を聴いて、印象や表現されている情景などをイメージする。 ・イメージしたことについて、「夏の思い出」の音楽のどのような特徴からなのかを自由に話し合う。 ○本題材の見通しをもつ。 ・本題材では、「夏の思い出」にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌うことを知る。 ○「夏の思い出」の歌詞の内容や曲想に関心をもち、音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受する。 ・「夏の思い出」の歌詞を音読したり歌詞唱したりして、歌詞が表す情景や心情、曲の雰囲気などをワークシートに書く。 ・ワークシートに書いたことを基にして意見交流を行い、新たに気付いたことや感じたことなどを書き加える。 ○「夏の思い出」について知覚したものと感受したものととの関わりについて考えるとともに、曲想と音楽の構造や歌詞の内容とを関わらせて歌う。 ・ワークシートに書いたことを基に、「夏の思い出」の旋律、強弱、形式の特徴に着目して、曲想との関わりについてグループで話し合い、学級で共有する。 ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを意識しながら、全員で「夏の思い出」を歌う。 ○本時の振り返りをする。 ・ワークシートに振り返りを書く。						
				1 単位時間ごとの評価規準を基に、観察やワークシートの記述などを材料にして、 〔指導に生かす評価〕 を行います。			
2	◆「夏の思い出」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもつとともに、創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けて歌う。			技	思	態	観察、演奏（歌唱）、ワークシート
	○前時の学習を振り返る。 ・前時に学習したことを基に、全員で「夏の思い出」を歌う。 ○「夏の思い出」にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌うために、どのように表すかについて思いや意図をもつ。 ・「夏の思い出」の3、4段目を中心に、旋律（音のつながり方、フレーズ）、強弱、形式などの特徴を生かして、どのように歌うかについて考え、ワークシートに書く。 ・ワークシートに書いたことを基に、グループや学級で意見交流を行い、「夏の思い出」にふさわしい歌唱表現を追求する。 ○「夏の思い出」にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。 ・思いや意図と、発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能との関係を意識しながら、グループや学級で歌う。 ○本題材の振り返りをする。 ・ワークシートに本題材の振り返りと、「夏の思い出」のよさや我が国で長く歌われている歌曲についての考えをまとめる。						
				1 単位時間ごとの評価規準を基に、観察やワークシートの記述などを材料にして、 〔記録に残す評価〕 を行います			

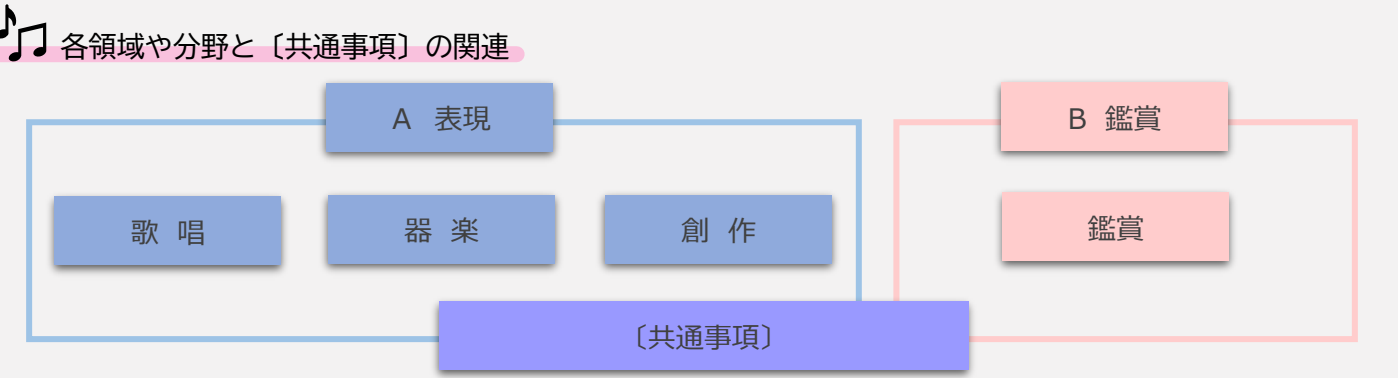
1 単位時間ごとの評価規準を基に、観察やワークシートの記述などを材料にして、**〔指導に生かす評価〕**を行います。

1 単位時間ごとの評価規準を基に、観察やワークシートの記述などを材料にして、**〔記録に残す評価〕**を行います。



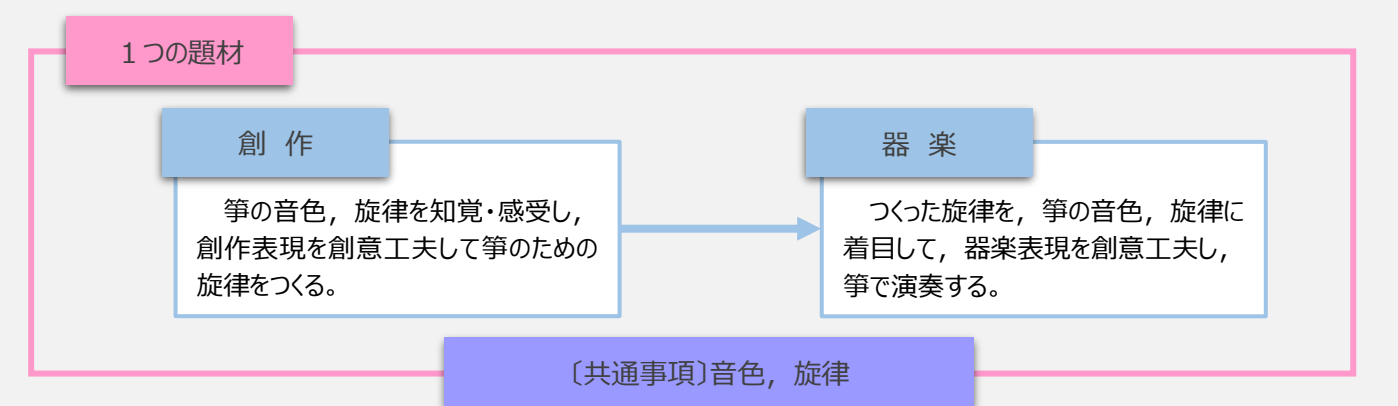
生徒にとって学びがいのある授業づくりを行うために

音楽科の教科の目標に「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して」とあるように、生徒にとって学びがいのある授業づくりを行うためには、歌唱、器楽、創作、鑑賞の活動をバランスよく行うことができるような計画を作成することがポイントです。
学習指導要領解説 p.95 では、指導計画の作成に当たって、歌唱、器楽、創作、鑑賞について、それぞれの特定の活動に偏ることのないように配慮すること、また、必要に応じて、〔共通事項〕を要として、歌唱、器楽、創作、鑑賞の各学習の関連を図るよう配慮することと示されています。

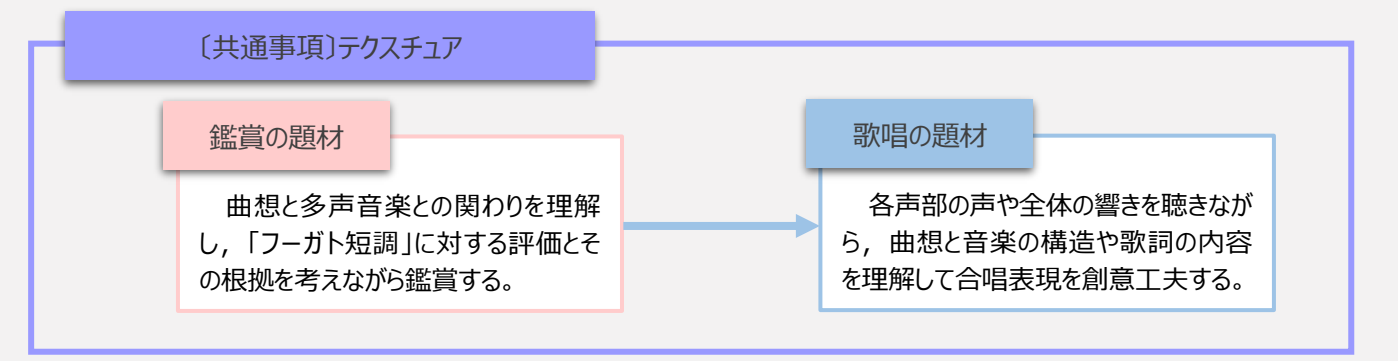


各領域や分野の関連を図ることの事例

① 題材の中で主として取り扱う〔共通事項〕を共通に設定して、複数の領域や分野の関連を図った1つの題材を構想する。



② 主として取り扱う〔共通事項〕を共通に設定して、複数の題材を関連付け、題材の配列を工夫する。



副島和久著：新学習指導要領の展開 音楽編 p.71 を基に作成



学習評価の詳細については、国立教育政策研究所『[『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料](#)』や佐賀県教育センターWeb『[学習評価の進め方](#)』を御参照ください。



中学校音楽科の授業づくりについては、佐賀県教育センターWeb「令和4・5年度プロジェクト研究（中学校音楽科教育研究委員会）」を御参照ください。

